

「和顔愛語」

校長 村上俊二

「和らいだ笑顔と、優しく愛のこもった言葉」という意味です。

道元禅師の言葉に、「向かいて愛語を聞くは面を喜ばしめ心を楽しくす。向かわずして愛語を聞くは肝に銘じ魂に銘ず」とあります。

直接ほめられるだけでなく、間接的に評価の言葉を聞くのも、もつと効果的と言うことでしょう。

子どもを伸ばす指導の基本も、「ほめる」ということにあります。子どもをほめることで、自信を持たせたり、自尊感情を高めたり、伸びようという意欲を高めたりして、教育効果を上げることができるのです。

ほめるためには相手のよさをしつかりと見つけなければなりません。また、相手をまるごと受け止める優しい笑顔で接することも大切なことです。常に「和顔愛語」を肝に銘じて人に接していきたいものです。

ご家庭でも「ほめて育てる」ことを大事にしていただきたいと思えます。事実に基づいた、ほめる価値のある小さな一点を見つけれることが、子どもを育てる親の力、教師の力です。よさを見つめる力を磨きたいものです。